

◎**今週の御言葉**「御霊の執り成し」(創世記18章23～33節、ローマ人への手紙の手紙8章22～27節) 「アブラハムは近づいて申し上げた。『あなたはほんとうに、正しい者を、悪い者といっしょに滅ぼし尽くされるのですか。』」(18:23)
「御霊も同じようにして、弱い私たちを助けてくださいます。私たちは、どのように祈ったらよいかわからないのですが、御霊ご自身が、言いようもない深いうめきによって、私たちのためにとりなしてくださいませ。」(8:26)

◎私たちは周囲の人々の現実直面する時、どの様に祈れば良いか戸惑うことがあります。どうすれば良いのでしょうか。

◎創世記18章にはアブラハムと神の使いとの出会いが記されています。サラに子どもが生まれることを告げた後、ソドムとゴモラの叫びを確かめるために出かけた時、アブラハムはソドムとゴモラを滅びから助け出すために祈ったのです。

◎ローマ人への手紙8章の主題は「聖霊における永遠の生命の確かさ」で4分解されます。①1～13節、命を与える御霊、②14～17節、子とする御霊、③18～27節、うめきとりなす御霊、④28～30節、神のご計画、⑤31～39節、勝利の賛歌、です。今日は③の部分から導かれます。「今の時の苦しみ」と「将来私たちに啓示されようとしている栄光」は比較にならないのです(18)。被造物も、切実な思いで神の子供たちの現れを待ち望んでいるのです(19)。これは主の再臨の事です。

◎この箇所「うめく」という言葉が3回出てきます(22, 23, 26)。これは共苦共生の現実を表現しており、私たちには様々な苦しみがある故に、うめきながらも、希望にあふれて待ち望んでいるのです。第一のうめきは、解放を求める被造物のうめきです(19～22)、第二のうめきは、体の贖われることを待ち望むキリスト者のうめきであり(23～25)、第三のうめきは、とりなして下さる御霊のうめきなのです(26～27)。

◎被造物は人間の罪の故に神の呪いの許に置かれています(創世記3:17～19)。再臨は被造物が束縛から解放される時であり、本来の栄光に回復される時なのです(使徒3:21, ペテロ②3:13, 黙示21:1)。私たちはどう祈ったらよいかわからない弱い者ですが、御霊は助けて下さるのです(26)。「助ける」とは「共にいて、必要な時に取って代わって重荷を引き受けて下さる」との意です。私たちの言葉にならない祈りを受け受けて神様に聞き届けられる祈りとして下さるのです。